

100億企業創出経営者ネットワーク 開催報告①

- 東海4県の全ての地方銀行が協力機関として参画し、東海地域の支援機関が一体となって、売上高100億円を目指す企業の挑戦を支援する目的で2026年2月27日に開催。
- 売上高「100億企業」を目指す高い成長意欲を持つ経営者同士のディスカッションや交流を通じて、業種、社歴を超えて成長の視座・発想や経営課題の気づきの場として開催。
- 当日は、100億宣言企業30社を含む企業44社（愛知県34社、岐阜県5社、三重県3社、静岡県2社）に加え、金融機関や支援機関など合計114名が参加。



施策説明



講演
未来工業株式会社 中島代表取締役社長



グループディスカッションの様子

ショートプレゼンテーションの内容

- 売上高100億円を目指す中での経営上の悩みとして、技術継承や人材獲得への不安、労働集約型脱却のためのAI活用、資金調達の困難さなどの発言があった。
- 海外展開など挑戦への強い意思を持つものの、体制・人材・投資が追いつかず、戦略実行のための組織づくりをどう進めるかの悩ましさが見受けられた。

グループディスカッションでの議論

- 少子高齢化の中での生産性向上については、DX・AI導入、多能工化、女性・高齢者・外国人など多様な人材活用が共通のキーワードとして挙がった。
- 売上拡大や成長においては、M&Aを積極活用すべきとの意見と、安易なM&A依存への懸念の両方が見られた。特に買収後の右腕人材の派遣・育成、シナジー分析の精度が重要視された。
- 右腕人材・幹部育成については、外部招聘・M&Aによる獲得、内部育成、抜擢人事、横のつながり強化など多様なアプローチが示された。
- 成長戦略は、現業の延長線だけでなくイノベーション、多角化、新分野進出の必要性が議論された一方、「中小企業の良さを失う恐れ」、「研究開発で強みを磨くべき」との意見もあった。

参加企業の声

- 中島社長の講演や異業種との意見交換が刺激となり、自社への気づきを得られたといった声や議論の時間や交流機会をさらに充実させてほしいとの声が寄せられた。

(参加企業経営者の声)

「グループディスカッションが非常に有用だった。」、「ディスカッションの時間がもっと欲しい。」

「異業種の方と意見交換が出来て有意義だった。同じ悩みを聞いて参考になった。」、「自社の進む道に気づきがあった。」



参加企業によるショートプレゼンテーション



名刺交換会の様子